

令和6年度 稲美北中学校 3年生の学力調査結果

＜学習成果と課題＞

国語

○成果があった点 ●課題がある点

情報の扱い方に関する事項や話すこと、聞くことの基本的な事項は比較的習得できている。一方で、我が国の言語文化に関する事項や書くことに課題がある。基本的な漢字の書き取りや表現の工夫に対する問題の正答率が特に低いことから、基本的な漢字を書きとる力や表現の工夫を読みとる力を伸ばすことが必要である。

言葉の特徴や使い方に関する事項

授業中の生徒の様子から、語彙が少ないことが感じとれたため、語句の意味を一つ一つ確認する指導を続けてきている。また、漢字を読むことができるが書けないことが多い。このことから、新出漢字や語句を確認する際にも書いて覚える工夫や、何度も書いて覚えるところまで指導していく。

○漢字を読むこと

●語彙を増やす

●漢字を正しく書く

我が国の言語文化に関する事項

古文を何度も繰り返し読むことで、文章の内容に慣れ親しむことができている。しかし、古文独特の文章構成への理解や知識が十分定着していない。和歌の読み取りにも課題がある。このことから、習得した基本的な知識を実際に活用し、新しい文章を読むなどの活用場面を設けていく。行書の筆遣いに関する理解に課題があるので、筆順や書体に関する指導を増やしていきたい。

○古典に慣れ親しむこと

●古典の単語や基本的な知識の定着

●古文の知識を活用して読む

書くこと 読むこと

記述式の問題において、正確に文章を読み取り回答する力や自分の考えを表現する力は比較的定着している。授業で自分の考えを言語化することに取り組んでおり、少しずつ力がついてきている。

書くことについては、考えを言語化することはできるが、表現の工夫について、論じたり判断したりする知識的な要素が必要な内容には課題がある。国語的な知識を用いて、文章をまとめる工夫を練習していく。

○自分の考えを書いてまとめる

○文章の意味を正確に読み取る

●文章の表現に対する理解

●文章の内容を批評する

数 学

○成果があった点 ●課題がある点

数と式

単元ごとに確認小テストを行っている成果として、基礎的な計算力は身につけているが、式を変形したり、その意味を読み取ったり、説明する活動をより充実させていくことが必要である。

○基礎的な計算を正確に解くことができる

●式を変形させることや、記述式の問題に課題があるため、記述問題を解く場面を今より多く設定する

図形

図形の移動については理解できている。三角形の合同条件や各図形の性質は理解できているが、それらを活用して課題を解決する活動を充実させていく。

○図形の基本的な性質を理解する

●条件を変えた場合において、ある事象が成り立つかどうか、数学的に解釈し証明する

関数

事象を数学的に解釈し、表・式・グラフを関連付けて、問題解決する活動を充実させていく。

○ある事象を一次関数であると捉えることができる

●式やグラフをもとに数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する

データの活用

データを読み取るときに、数学的な表現を用いて説明することに課題のある生徒が多い。日常生活や社会の事象を取り上げ、考察し判断する活動を充実させていく。

○データの意味を読み取ることができる

●箱ひげ図からデータの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する

<児童（生徒）質問用紙>

高い項目

「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」は全国・兵庫の平均より上であることから、家庭での基本的な生活習慣は身につけていると考えられる。

また、「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「人が困っているときは進んで助けますか。」「困りごと不安がある時に、先生や大人にいつでも相談できますか」「友達関係に満足していますか」という項目は、全国・県平均より高くなっており、意欲的に学校生活を送る中で、全職員で生徒をほめる・認める教育を推進してきたことが、児童の自己肯定感や自己有用感の高まりとして表れてきていると思われる。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問には、非常に高い割合を示している。本校で取り組んでいる稲美町ささえ隊としてのボランティア活動やコミュニティ・スク

ールの活動を通して、郷土愛や地域に対する感謝の気持ちが生徒たちに芽生えてきている結果と考えられる。

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した生徒が8割を超え、「国語・数学の勉強が好き」と回答した生徒も全国平均を上回った。少人数授業などを通して、生徒一人ひとりに丁寧に関わることを生かし、粘り強く生徒と向き合ってきた成果であると考ええる。

やや低い項目

平日の学校の授業以外の勉強時間や、土日など休日の勉強時間が少なくなっている。家庭での時間の過ごし方を浮き彫りにしていると思われる。

(27) の ICT 機器の活用に関する項目では、まだ十分に活用できていないことがうかがえるため、今後さらに工夫を凝らし、授業などで有効な活用場面を設定していく必要がある。また、家庭でのテレビゲーム（スマホ含む）の時間が多いことから、自制ができず、依存傾向にあり、生活や学習への悪い影響が増加していくと予想される。ゲームやスマホ、SNS などの扱いに慣れていても、それがもたらすトラブル、依存、法律に詳しいわけではない。家庭任せにせず、学校教育において、予防措置に取り組んでいく必要があると考ええる。

「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した生徒が少ない。一方、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した生徒が、全国平均を上回った。より一層多様な考えにふれることのよさを感じ、自分の考えを深めたり広げたりすることができるように、主体的な話し合い活動ができるように努めていく必要がある。

全体

家庭生活に関する課題が明らかになり、今後の学校と家庭の連携のポイントが明確になった。家庭での勉強時間が少ないことが課題となっており、生徒が主体的に家庭学習に取り組むことができるように、生徒自身が課題の内容等を自分で選択したり、判断したりして取り組むなどの手立てを行っていききたい。

授業においては、タブレットなどの ICT の活用がまだ不十分である結果から、各教科等における ICT 活用の在り方を明らかにし、ICT 機器を活用した授業展開を工夫していくことで、全ての生徒が学ぶ意義や楽しさを実感できる授業を展開していく必要がある。

「数学・理科の勉強は好きですか」「数学・理科の勉強は大切だと思いますか」が全国平均を上回っているのに対し、「授業の内容はわかりますか」は課題がある。困難な課題に対しても粘り強く解答する意欲を高めるために、授業中の理解が不十分であった生徒への支援(補習や質問時間の確保など)を行っていききたい。

「学校に行くのは楽しいと思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「友達関係に満足していますか」が高い割合を示していることに甘えず、今後も積極的に改革を行っていききたい。